

平成17年度

教育行政執行方針

上士幌町教育委員会委員長 島 口 重 一

平成17年第2回上士幌町議会臨時会の開会に当たり、上士幌町教育委員会の所管行政の執行に関する主要な方針について申し上げます。

21世紀の歩みが社会の大きな変化を伴いながら進む中で、教育の分野においては、子どもたちが将来への夢や目標を持ちにくくなっていること、美しさや優しさを感じ取る感性が十分に身につけていないこと、先の国際学力調査の結果等から、子どもたちの学力が低下傾向にあることなどが指摘されており、学力や家庭、地域社会の教育力の向上に向けた取り組み、いじめ・不登校や青少年の問題行動への対応が一層強く求められております。

また、義務教育の在り方など更なる教育改革に向けた議論が本格化しております。

このような中で、子どもたちが、この上士幌町を誇りに思い、夢と希望にあふれ、主体性と責任感、高い志と向上心を持ち、心豊かにたくましく成長できるよう育てていくことがきわめて重要であります。

上士幌町教育委員会といたしましては、このような認識のもと、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかでたくましい心身」の育成を重点として取り組んでまいります。

まず、「確かな学力」につきましては、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、学ぶ意欲や自ら考え、主体的に判断する力などを育成していくため、個に応じた指導を一層充実させるとともに、学習意欲の効用や学ぶ習慣の定着に努めてまいります。

また、自らを律しつつ、他の人と協調し、相手を思いやる心などの「豊かな心」を育成するため、道徳教育の充実、読書や芸術

文化に親しむ活動の推進、いじめ・不登校など問題行動等への適切な対応、家庭、地域社会の教育力の向上を図る取り組みなどに努めてまいります。

更に、あらゆる活動の源となる「健やかでたくましい心身」を育成するため、食に関する指導の充実、安全教育の推進や地域におけるスポーツ活動の振興に努めてまいります。

国の地方行財政における三位一体の改革により、地方交付税や補助金の削減傾向の中で、町の財政はこれまでにない厳しい局面を迎えています。

上土幌町教育委員会といたしましては、地方分権の推進や少子高齢化の進展などの社会変化を踏まえ、「第4期上土幌町総合計画」などに沿った施策の推進に努め、活力ある地域を創り上げていくことが大切と考えております。

次に、こうした基本的な考え方のもと、取り組んでまいります主な施策について申し上げます。

第1 生涯学習の推進

本町の生涯学習は、町民の各年齢層に対応すべき学習情報の提供や学習機会の確保に努めるとともに、各種イベントなどを実施しておりますが、社会の変化に主体的に対応できるよう、地域の特性を生かした生涯学習の基盤整備、学習活動の推進や学社融合を目指し、生涯学習の充実を期してまいります。

また、町生涯学習推進協議会を中心に、町内関係機関とのネットワーク化と地域教育資源情報の提供や相談体制など支援システムを充実し、生涯学習の推進を図ってまいります。

生涯学習フェスティバルなど事業内容や実施方法について十分

検討し、町民の期待や要望に応えるべき啓発を図ってまいります。

第2 学校教育の充実

新学習指導要領が全面実施されてから4年目を迎えますが、生き生きとたくましい児童生徒を育てていくため、確かな学力の育成や豊かな心と健やかでたくましい心身を育み、情報化や国際化など社会の変化に対応した教育の推進、地域に開かれた学校づくりを一層推進してまいります。

確かな学力の育成

新学習指導要領のねらいとする基礎・基本を徹底し、個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力等を含めた指導の充実を図っていくことが大切です。

今年度から始まる文部科学省指定事業の「理数大好き地域モデル事業」の取り組みにつきましては、上士幌町の豊かな自然資源などの教材を生かし、地域の全小中学校を対象として事業実施ができるように申請を行っているところです。

また、自然環境教育につきましては、地域の教育資源の活用と個性ある地域学習の一貫として、ひがし大雪自然ガイドセンターとの連携により実施いたします。

上士幌小学校の低学年における基礎基本の確実な定着と個性や能力に応じた補充発展的な学習の指導を一斉授業に加えて行うために、チーム・ティーチングを行い、理解度に応じた個別指導を行うことから指導方法工夫改善担当教員を道費において配置しました。

豊かな心と健やかでたくましい心身を育む教育の推進

子どもたちを取り巻く社会環境が急激に変化する中で、不登校児童生徒が増加しておりますが、基本的な規範意識と倫理観、他人を思いやる心、善悪を判断する力の基盤となる豊かな人間性の育成に向けて、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組んでいくことが大切です。

児童生徒がいきいきとした学校生活を送れるように、全校一体となった指導体制の確立に努めてまいります。

情報化や国際化などの社会の変化に対応した教育の推進

高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、情報活用能力を育成することが重要であり、教育用コンピュータを活用した情報活動を進めるとともに、国際化等に対応してコミュニケーション能力の育成を図るため、授業内容を工夫した英語指導助手の活用などを中心として、引き続き国際理解教育を進めてまいります。

地域とともに歩む教育の推進

学校は、校長を中心として、保護者や地域住民からの信頼と協力を得ながら教育活動に取り組んでいくことが大切です。

こうした考え方に立って学校運営を行うとともに、学校評価の取り組みを進め、これまで以上に情報提供を行いながら、保護者や学校評議員の方々からのご意見をお聞きし、地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

北海道上士幌高等学校は、少子化の進展や生徒の進路志向の

多様化に伴い、例年は2間口の維持に必要な入学生の確保が困難な状況になっておりますが、今年度においては、上士幌高校を始めとして北海道上士幌高等学校振興会などの協力により、2間口を確保することができました。

全道的に中学校卒業者が減少する中で、上士幌中学校卒業生数も年々減少していることや十勝一学区への通学区域変更、生徒の進路志向が多様化している現状を踏まえ、小規模校における個別指導の長所を生かした特色ある学校づくりとして、個性ある教育活動や各種学校などと連携した進路対策などを重視した取り組みが必要と考えております。

また、昨年12月に小・中・高連携教育推進会議が発足し、授業交流、部活動交流、生徒指導交流を柱とした具体的な検討のもと、全町的なネットワークとして本格的に動き出す準備を進めているところです。

生徒が学びたくなるような特色ある学校づくりに向けて、上士幌高校の教職員の協力をいただき、北海道上士幌高等学校振興会と一体となり支援内容等の見直しをその都度検討しながら、上士幌高校の存続と発展に向けた努力をしてまいります。

学校施設の整備等

学校施設の整備につきましては、その都度、施設の状況に合わせた整備を図ってまいります。

また、学校給食センターにつきましては、モニター制度等を活用するとともに、地産地消の促進を行い「ふるさと給食」の研究や衛生管理の徹底など一層の安全対策に努め、温かくておいしい学校給食を提供できるように努めるとともに、学校での食育教育のあり方について具体的な検討を行ってまいります。

一方、最も安全であるべき学校において児童生徒はもとより、教職員の生命が脅かされる事件などが発生し、日本中を震撼させたところです。

全校において学校安全対策設備や児童が持つ防犯ブザーなどの点検を行い、その都度改善を図ってまいりました。

各学校においては定期的に安全対策マニュアルを点検し、いつ・いかなる場合も児童生徒の安全確保に努めるとともに、自らの身を守るための研修や地域と連携した安全対策のあり方の検討を進めてまいります。

学校再編について

児童数の減少に伴い、学級編成が厳しくなる学校が生じてくることなどから、教育委員会といたしましては、小学校の再編については避けて通れない課題との認識のもと、上士幌町学校適正規模等の指針の検討を行い、この指針を基本として「学校適正規模等に基づく小学校適正配置の考え方」を整理いたしました。

この基本となる学校の適正規模や適正配置につきましては、教育効果や児童の通学圏、学校と地域の相互関係及び財政効率などを総合的に検討し、町が目指す将来構想や住民の意思などにより判断選択していくものですが、最終的には、子どもの教育に視点を当て、適切な学校配置に向けて慎重に取り組むこととしています。

とりわけ小学校適正配置計画の策定に向けましては、保護者や地域及び関係者と十分話し合いを行い、理解と協力を得ながら進めてまいります。

また、適正配置計画に基づく学校再編の目標年次につきまし

ては、社会情勢の変化や計画の具現性、児童数の推移を考慮して6年後の平成22年度とし、この間においても保護者や地域及び関係者と話し合いを続け、理解が得られた学校から順次実現するよう努力してまいります。

第3 社会教育の推進

生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、町民一人一人はライフステージに応じた多様な学習ニーズを持っております。

このため、第5期社会教育中期計画に基づき、少年教育から高齢者教育はもとより、家庭の教育力向上に向けて、各種学習の機会が提供できるよう努めてまいります。

少年教育につきましては、地域の少子化が進行することから各種少年活動における停滞が見られるところです。引き続き地域の特性を生かした自然体験や生活体験などの活動を通して少年教育の充実を図るとともに、少年会育成委員連絡協議会との連携を強め、木工教室、子ども冬まつり、カルタ大会などを実施してまいります。

また、上土幌町次世代育成支援行動計画の策定に伴い、子どもの遊びも重要な課題と位置付けられます。このことから昨年開設しました「子どもの広場事業」の充実に向けた管理運営方法について、関係機関と連携を図り、子どもの視点に立った検討を図ってまいります。

青年教育につきましては、自ら進んで行う学習活動や社会参加を促すとともに、町青年会活動のボランティア活動やサークル活動などへの情報の提供などを主体として青年活動を支援してまい

ります。

成人教育や高齢者教育、女性教育につきましては、地域活動の促進と学習機会の確保に努めてまいります。

各種成人及び女性教育講座・研修会並びにシルバー学級、シルバーコーラスなどを開設して、地域活動にも主体的に参加されるような学習する機会の整備に努めるとともに、連合PTAの取り組んでいる地域の教育課題の解決に向けた研究や活動を支援してまいります。

特にシルバーコーラスなどの高齢者活動は、今後の本町の地域文化を考えた場合、大きな特色ある活動として位置付け、育成する必要があると考えます。

家庭教育につきましては、人間形成の基礎を培い、全ての教育の基礎でもある家庭・地域社会の教育機能を重視し、様々な機会をとらえ家庭の教育力の向上に関する学習情報や活動の場の提供に努めてまいります。

第4 文化の振興と文化財の保護活用

豊かな自然とのふれあいを深め、個性豊かな地域文化の創造に努めてまいります。

本年度、結成40周年を迎える町文化協会をはじめ、各サークルの自主的活動を支援するとともに、芸術鑑賞会、ユース吹奏楽団協会、「火群」編集委員会や地域の宝さがしの会などに対し、引き続き助成してまいります。

図書館の利用につきましては、管内においても高い利用率になっておりますが、引き続き利用者の声を重視した利用の促進を図るとともに、学社融合の観点に立った児童生徒の利用の拡充や管

内図書館ネットワークの活用を行い、地域により親しまれる図書館を目指してまいります。

ひがし大雪博物館の整備につきましては、「ひがし大雪エコミュージアム構想」の中で町の方針を明らかにしたところです。今後、環境省が行う集団施設地区等整備事業において、新たな公園事業計画を策定することから、「ふれあい自然塾検討委員会」の見直しが予定されております。これまでの検討会での協議を踏まえ糠平地区の中核施設において、博物館の施設機能が維持できるよう、この構想の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

また、埋蔵文化財や郷土資料等の地域に残された貴重な歴史資料の保護・保存・調査について引き続き努めてまいります。

第5 社会体育の振興

町民が健康で明るい生活を営むために、地域の特性を生かしたスポーツ活動や体育活動を推進し、体育連盟や関係団体との連携を強めながら、スポーツの普及・奨励に努めてまいります。

また、生涯にわたって、いつでもどこでもスポーツに親しむことができるよう、指導者養成と指導体制を確立し、生涯各期における能力や適性に即したスポーツ活動の機会の提供に努めてまいります。

第6 今後の教育行政執行の基本について

教育行政をとりまく情勢は、「21世紀教育新生プラン」等に基づき、教育改革が着実に推進されておりますが、学校週5日制と新学習指導要領の実施から4年目を迎え、さらにその実践の充実

が求められております。

児童生徒に確かな学力を身に付け、豊かな心を育み、自ら能力を最大限に伸ばすことができるよう、学校や地域住民との連携を図り、地域に根ざした教育行政を推進してまいります。

また、福祉バス事故から間もなく6年目を迎え、本年は一つの節目の年となります。本年も7月10日の「生命(いのち)を大切にする日」につきましては、改めて生命の大切さ、尊さを考える日として全町的な取り組みを進めてまいります。

以上、平成17年度の教育行政の推進方針と主な施策について申し上げます。

町議会議員の皆様、並びに町民の皆様の一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます、教育行政執行方針といたします。